



平成27年4月15日
海上保安庁

海釣りを楽しむために！

～MICSスマートフォン用サイトを活用して事故防止～

間もなくゴールデンウィークです。

海上保安庁では、マリンレジャーが活発化するこの時期に事故の未然防止及び死者・行方不明者の減少を図るため、マリンレジャー安全推進活動を実施します。

ゴールデンウィーク中は、特にプレジャーボート等で釣り場へ向かう途中での事故や磯場などでの釣り中の事故が多いことから、釣りをされる方に次のような注意事項を呼びかけるとともに、本年4月10日に試験運用がスタートしたMICSスマートフォン用サイトの活用を呼びかけます。

<注意事項>

プレジャーボート等の機関故障は「重大な事故」を引き起こす

日頃の整備と発航前点検を徹底！

プレジャーボート等は風・波に弱い

気象の変化による出港取り止め、早期の退避行動を徹底！

「自己救命策確保3つの基本」を励行しよう！

「ライフジャケットの着用」、「連絡手段の確保」、「118番の有効活用」

(詳細は別添のとおり)

活動期間

平成27年4月29日(水)から5月6日(水)までの8日間

実施事項

事故が多発している釣り場(特に防波堤及び岸壁)への巡回指導の実施

地元自治体及び釣り団体等と連携した安全対策の実施

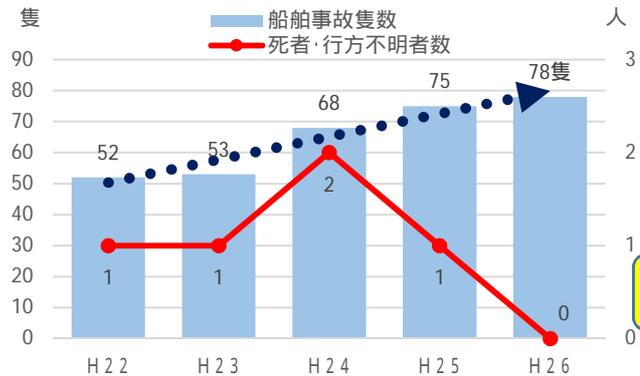
釣り団体等が主催する安全講習会や釣り大会などの機会をとらえ、MICSの有効活用、自己救命策(「ライフジャケットの着用」、「連絡手段の確保」、「118番の有効活用」)の確保等についての周知・啓発活動の実施

プレジャーボート等利用者に対する安全指導の実施 等

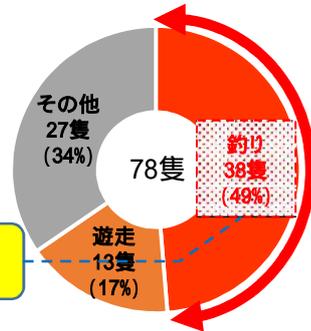
GW期間中は釣り中の事故が多発！特に注意を！

GW期間中におけるプレジャーボート、遊漁船による船舶事故の状況

GW期間中におけるプレジャーボート、遊漁船による船舶事故の状況(過去5年間)



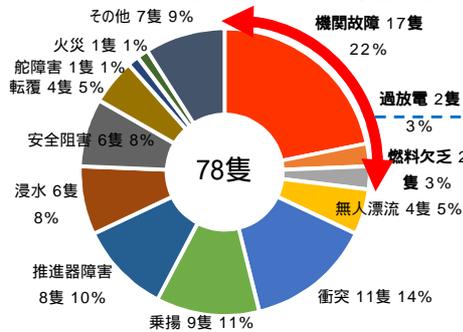
GW期間中に船舶事故を起こしたプレジャーボート、遊漁船の運航目的(平成26年4月26日～5月6日)



釣りを目的に運航した船舶による事故が49%

ゴールデンウィーク中はプレジャーボート、遊漁船の事故隻数が年々増加傾向にある。釣りを目的に出港したプレジャーボート、遊漁船による事故が多い。

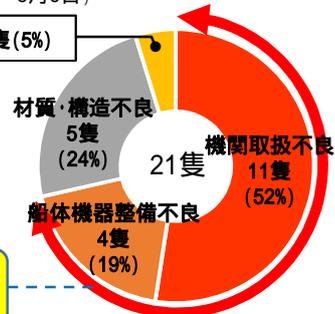
ゴールデンウィーク期間におけるプレジャーボート、遊漁船による船舶事故の状況(平成26年4月26日～5月6日)



機関故障、バッテリー過放電、燃料欠乏が29%

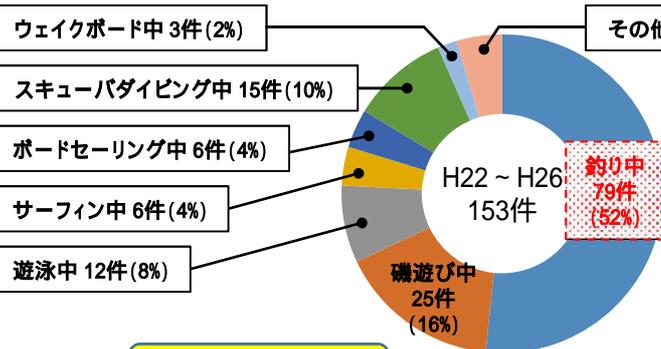
機関取扱不良、船体機器整備不良の発航前点検等の不備が71%

不可抗力等1隻(5%)

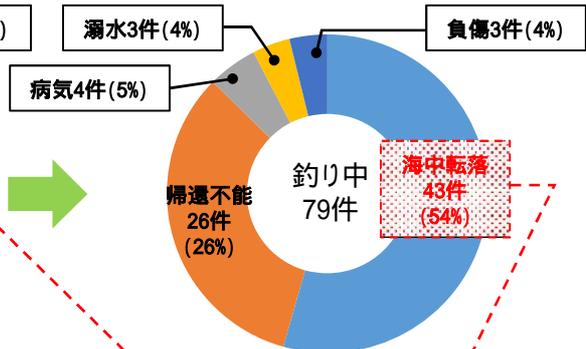


プレジャーボート、遊漁船による船舶事故のうち、機関故障、バッテリー過放電、燃料欠乏が約3割を占める。これらの主原因は、機関取扱不良、船体機器整備不良の発航前点検等の不備が約7割を占める。

GW期間中のマリナーに関する海浜事故の状況

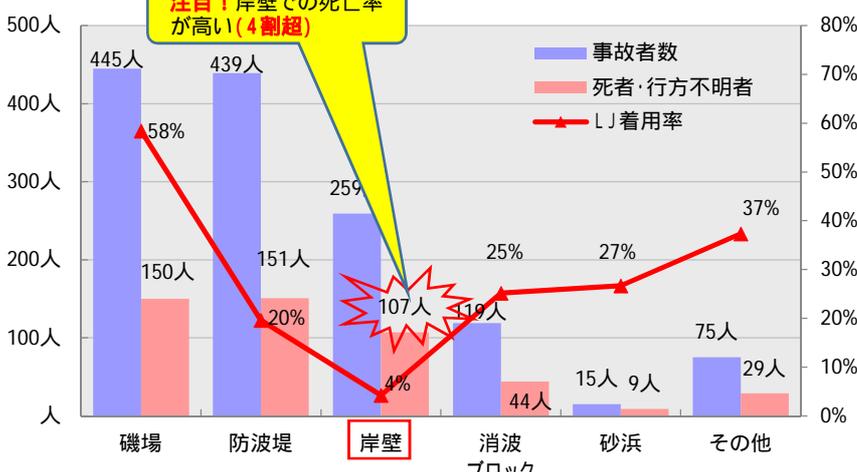


【釣り中の原因別事故件数】



釣り中の事故の54%が海中転落

釣り中の事故が全体の52%



注目！岸壁での死亡率が高い(4割超)

帰還不能とは、漂流、孤立等により保護が可能な陸岸に戻れない状態となった場合をいう。

【参考】釣り中の場所別事故者数及び死者・行方不明者数とライフジャケット着用率(H22～H26)

事故事例

発航前点検をしていれば事故が防げた事例

釣りのためプレジャーボートを航行中、冷却水温警報が吹鳴したため、機関を停止させ点検したところ、冷却水の吐出を認めずオーバーヒートを認めたことから、携帯電話から救助を要請し無事救助された。発航前点検時に冷却水フィルターを点検していれば事故が防止できた。

最新の気象情報を入手していれば、事故が防げた事例

ゴムボートで岩場に渡って磯釣りをしていたが、天候が急変し、岩場の上に置いていたゴムボートが、高波により流出し孤立状態となった。幸いその状況を目撃した者が118番通報し無事救助された。海は急変しやすいため、最新の気象情報を入手し、帰港していれば事故が防止できた。

防水パック等に携帯電話を入れていれば、円滑に救助ができた事例

深夜に釣り場所を探すため防波堤の消波ブロック上を移動していたところ、足を踏み外し海中に転落、自力で上がることができず、また、持っていた携帯電話も海水に浸かり助けを求めることができなかった。幸い海中転落に気づいた友人が118番通報し無事救助された。

救命胴衣の着用により体力の消耗が軽減された事例

磯場での釣り中に突発的な磯波により海中転落、投げ込まれた救命浮環につかまり沖合いに流されたものの、救命胴衣を着用していたため、体力消耗が軽減され無事救助された。

帰還不能となったが無事救助された事例

夕方、灯台下の岩場（黒瀬）での釣りを終え帰ろうとしたところ、波が強く歩いてきたところに波がかぶって帰れなくなった。約10時間後に海上保安庁のヘリコプターにより無事救助された。（救命胴衣着用）

海釣りの注意点

1 気象情報は最新の情報を！～MICSを有効活用しよう！～

海上では天候が急変することがあるので、MICSなどを活用して常に最新の気象情報を入手し、海上模様の悪化が予想されれば、釣りを中止し避難しましょう。無理な釣りは命取りとなります。

2 万々に備えよう！～『自己救命策確保3つの基本』を励行しよう！～

- ・単独行動は避けましょう。
- ・家族などに行き先や行動予定を伝えてから、釣りに出掛けましょう。
- ・服装は赤や黄色等の目立つ服装に心がけましょう。

3 周囲の環境に注意！

釣り場は海草や波などで滑りやすくなっていたり、後ろから突然波が襲ってくることもあるので、周囲の環境に十分注意しましょう。

4 発航前点検の徹底！

プレジャーボート等で釣りに出掛ける場合は、発航前点検を必ず行いましょう。

『自己救命策確保3つの基本』
ライフジャケットの常時着用
連絡手段の確保
118番への速報

MICS（沿岸域情報提供システム）とはプレジャーボート、漁船等の船舶運航者やマリナー・愛好者の方々に対して、全国各地の灯台などで観測した風向、風速、波高などの局地的な気象・海象の状況、海上模様が把握できるライブカメラなど、海の安全に関する情報を提供するシステムです。



お子様を海へ連れて行く時は、常に目を離さないように！



海上保安庁